

Japan, Agroclimatological method, Proceedings of the reading Symposium, UNESCO, 269-280.

Yoshino, M.M., 1975: Climate in a small area, Univ. of Tokyo Press, 429-434.

第20期 第4回 常任理事会議事録

日時 昭和53年12月21日(木) 15.00~17.00
場所 気象庁予報部会議室
出席者 岸保, 小平, 内田, 植村, 河村, 関根, 新田, 松本, 増田, 山下.

報告

[庶務]

- 11月21日, 日中科学技術交流協会会長から, 学協会関係の国際会議および総会, シンポジウムに中国の科学者が参加できるかどうかの照会がきた(本日の議題とする).
- 12月1日, 昭和54年度日本気象学会春季大会の当番である気象庁観測部長から, 期日, シンポジウムの標題等について回答がきた(本日の議題とする).
- 12月2日, 昭和52年度に奨励金を受領された札幌管区の宮川和夫会員および永沢義副会員から, 「オホーツク海沿岸の気流調査」の研究報告書が提出された.
- 12月19日, 当学会東北支部長から, 日本気象学会昭和53年度秋季大会決算報告書が送られてきた.
- 12月19日, 当学会九州支部長から, 昭和54年度日本気象学会秋季大会会場等について通知がきた.
- 12月19日, 朝日新聞社から, 朝日学術奨励金候補者推薦依頼がきた(締切2月28日).

[天気]

- 年間の印刷頁数が780頁なので1ヵ月65頁になるように心掛けたい.
- 気象衛星の写真をモノクロで解説文つきで1月号から, カラー写真は4月号以降にのせたい.
- 夏季大学用普及講座は, 3, 4, 5月号に掲載したい.
- ニュース欄に国際的なものを検討してゆき早く会員に知らせるようにしたい.

[気象集誌]

- 再投稿の投稿規程については, 次回の編集委員会で検討したい.
- 最終号にインデックスをつけるようにしたい, 昔のものについては1980年頃実施の方向で検討したい.

[気象研究ノート]

- 編集委員補充
測定, 特にリモートセンシングによる測定部門が弱体なので, 宮内正厚会員(気象研究所高層物理研究部)を編集委員に補充したい.
- 出版予定
ア. 融雪なだれ特集 印刷中1~2月中出版予定
イ. エエロゾル基礎編 原稿12月末入手予定
ウ. 集中豪雨論(仮題) 1979年3月原稿入手予定
エ. 気候変動シンポジウム 同上
オ. 天気解析 1979年3月原稿入手予定
カ. レーダ気象 1979年8月原稿入手予定
キ. エエロゾル応用編 1979年12月原稿入手予定
(注)「放射」すでに予定を経過しているが著者の都合で出版予定はつかない.

[講演企画]

- 秋季大会予稿集にかなり乱丁のものがあつた.
- 気候変動シンポジウムで, 講演予定の大阪大学の川中直人先生が病気で欠席となりご迷惑をかけることとなった.
- 昭和54年度の春季大会シンポジウムは中層大気を取り上げたい. ア. MAPとは何か イ. 中層大気の組成 ウ. 力学.

議題

- 新しい賞の設置について 去る11月14日仙台での全国理事会で本件について討議したが, その後山本義一名誉会員から岸保理事長に次のとおり申し出があつた. 1) 新しい賞に基金を出したい. その際賞の名称を「山本賞」にしてほしい. 2) 賞金の額は学会賞, 藤原賞と同じく1件10万円にしてほしい. 3) 基金は, 藤原賞と同じ取り扱いにして利息で賞金を出すようにしてほしい. 以上の希望条件を受け入れ, 承認することとなった. なお, 最終決定前に理事長から全国理事にいきさつを述べ意見を聞くことになった. また, これに伴い新田担当理事から山本賞の選定規定(案), 同選考規定(内規・案)の説明があり一部修正のうえ了承された.

2. 昭和54年度夏季大学について 今年なみに実行したい。内容はアンケートの結果により、日本の天気というテーマにしたい。すなわち、現在のところ、

第1日午後 衛星写真から見た日本の天気

第2日午前 大気大循環と日本の天気、小気候・局地気象(含・実習)

第3日 天気図の見方と利用法

第4日午前 極地の気象、午後 学校教育の集まりを計画している。

3. その他

(1) 中国科学者の総会、シンポジウム参加の件 日中科学技術交流協会会長から学協会関係の国際会議および総会、シンポジウムに中国の科学者が参加できるかどうかの照会があったに対し、さしつかえない旨の回答をすることを了承した。

(2) 昭和54年度春季総会ならびに会場について 増田講演企画担当理事から、従来から使用している第3会場の研修教室は、狭あいでも使いづらいついという批判が出ており、気象庁の向側に竣工する共済会館の会場を借用したいとの提案に対し、会場費はいくらかかるか検討して当番である観測部に申し入れて貰うことを了承した。

(3) 会員増について 関根会計理事から、財政事情、

会員構成の現状から昭和54年度において通常会員数の最低10%増、賛助会員数の20%増を計るために、次のような働きかけを行ないたいとの提案がなされた。

ア. 一般の会員に対する働きかけ 「天気」に簡単な趣旨とともに入会申込書を綴り込み会員周辺の未加入者を勧誘してもらう。

イ. 理事および各支部役員に対する働きかけ

a) 財政事情、会員構成の現状等を説明し、通常会員増、賛助会員増の必要性を文書で呼びかけ、折にふれ会員増について協力してもらう。

b) 各支部に入会申込書をまとめて送付しておく、随時勧誘し利用して貰う。

ウ. 常任理事会としての動き 特に賛助会員増について協議のうえ努力する。

エ. その他

(注) 以上のための具体的な起案などは、庶務および会計担当において行ないなるべく早く動き出す。これに対し、次回常任理事会に資料を提出して貰い、協議することになった。

承認事項 鈴木幸夫ほか31名の新入会員を承認